

平成 25 年度札幌市アイヌ施策推進計画に係る検証評価(案)

平成 27 年 3 月

札幌市アイヌ施策推進委員会

札幌市のアイヌ施策の推進状況について、平成 25 年度札幌市アイヌ施策年次報告書を基に、札幌市アイヌ施策推進計画の施策目標ごとに以下のとおり、検証評価する。

1 施策目標：市民理解の促進

～ 伝統文化の啓発活動の推進、教育等による市民理解の促進

(1) 25 年度事業の進捗

○伝統文化の啓発活動として、i) 講話や楽器演奏、伝統舞踊などを紹介する小中高校生団体体験プログラム(参加校 44 校、参加者 2,859 人)、主に大人を対象にアイヌ文様の刺繍や木彫り、料理教室などを行うアイヌ文化体験講座、アイヌミュージック、古式舞踊、ムックリ・刺繍等製作体験などを行うアイヌ文化交流センター月間イベント(開催回数 24 回、参加者 1,650 人)、ii) アシリチェプノミ「新しい鮭を迎える儀式」など、季節に合わせた行事、iii) 札幌駅前通地下歩行空間を活用した伝統文化体験やパネル展(来場者数 10,838 名)などを計画どおり実施し、多数の市民がさまざまなアイヌ民族の伝統文化や歴史に触れることができた。

○教育等についても、24 年度に引き続き、小学 4 年生及び中学 2 年生の授業において、副読本等によりアイヌ民族の歴史と現在について学習を行ったほか、札幌市職員や教職員を対象に各種研修等を行い、施策目標である「市民理解の促進」を進めることができたと認められる。

(2) 24 年度事業の検証評価時の意見の反映について

○平成 24 年度の検証評価において、アイヌ民族に関する市民理解の促進のため、教育の充実について、広い視野での検討が必要と考えるべきという意見があった。

25 年度は幼稚園や学校等への生活民具の貸出を開始するなど、徐々にではあるが、教育現場におけるアイヌ民族に関する市民理解の促進に対する取組が行われている。

○委員からの個別意見として、小学校に配布している人権ノートの掲載内容を工

夫すべきとの意見があった。

25年度は新たに札幌法務局の取組である「子どもの人権ミニレター」を紹介した。

○同じくアイヌ民族に関する一般市民の理解を促進するために、講演会等の開催回数を増やすとともに、講師についてもバラエティを持たせるべきであるとの意見があった。

25年度は市内各区の民生児童委員協議会代議員会において、市職員がアイヌ民族の歴史等を紹介した。

2 施策目標：伝統文化の保存・継承・振興

～アイヌ民族の歴史を尊重する施策の推進、伝統文化活動の推進

(1) 25年度事業の進捗

○歴史の尊重に関する施策として、中央区の埋蔵文化財センターの更新に伴い、アイヌ文化期に関する展示を新たに行うこととしたほか、札幌駅前通地下歩行空間に「札幌の地名とアイヌ民族」紹介コーナーを常設した。

○アイヌの伝統的生活空間再生事業（イオル再生事業）では、新たにアイヌ民族に関係の深い自然素材の栽培用地を造成（面積 1,000 m²）したほか、24年度に引き続き、文化伝承に有効な体験講座（民具づくり、伝統料理調理、野山での子どもの遊び）を行った。（開催回数 6 回、参加者 71 人）

○また、アイヌ文化交流センターでは、伝統家屋や生活民具等の継続展示や啓発事業のほか、屋外展示物のひとつであるポロチセの経年劣化に伴う改修を行い、その際、アイヌの人々に対し、伝統家屋の建築技術の伝承を行った。

○アイヌ文化交流センターの来館者数は、24年度に続き 5 万人を超え、多数の方が参加できる機会を様々に設けるといった取組により、施策目標である「伝統文化の保存・継承・振興」が図られたと認められる。

(2) 24年度事業の検証評価時の意見の反映について

○平成 24 年度の検証評価において、チセを小中高校生団体体験プログラムで活用するため、プログラムの見直しについて、意見があった。

25年度は、体験プログラムの中で、チセの仕組みや役割を丁寧に説明するといった取組が行われた。今後も、学校側との意見交換などを通じて、時間的な制約がある中で、プログラムの内容を工夫していくことが望ましい。

3 施策目標：生活関連施策の推進 ～産業振興等の推進、生活環境等の整備

(1) 25 年度事業の進捗

○雪まつりなどの大型イベントの開催と連動して、民芸品の展示販売スペースでの試行販売を札幌駅前通地下歩行空間で 2 回開催し、約 16,000 人が来場した。

○教育・就職・住宅・医療介護等の相談に対応する生活相談員 2 名・教育相談員 1 名を配置し、25 年度は約 2,500 件の利用があったほか、アイヌ民族の児童・生徒に対する学習支援として、夏休み、冬休み期間中に、教育関係者やボランティア等による学習会を実施し、延べ 30 名の参加を得るなど、計画に沿った取組が行われたと認められる。

(2) 24 年度事業の検証評価時の意見の反映について

○委員からの個別意見として、産業振興を推進するため、工芸品等の展示販売スペースの設置を検討すべきであるとの意見があった。

25 年度は上記に示した試行販売を実施したほか、新たにアイヌ工芸品振興に関する基礎調査を行なった。

4 24 年度の検証評価において出されたその他の意見について

○予算等の資源が限られる中で、取組内容の一層の工夫に努めるべき、また、国や北海道をはじめとする関係機関・団体との連携をさらに深めるべきとの意見について、25 年度は国、道、関係機関などとの連携により、イランカラプテ・キャンペーンとして、札幌駅前通地下歩行空間等での PR などを行った。

○共同利用館は老朽化が進んでいるので、対策を検討すべきであるとの意見について、25 年度は建物の現状把握を目的として、耐久度調査を行った。

5 今後について

○委員からの下記の個別意見についても適切に検討することが求められる。

・生活相談や教育相談を通じて、アイヌの人々が置かれている状況の把握や情報収集に努め、問題点を整理することが必要である。

・小中高校生団体体験プログラムは、同じ学校が継続的に参加すること、及び参加校数を増やすことが必要である。

・アイヌ民族に対する経済的、社会的支援を充実させることが必要である。